

がん患者の悩みや問題と地域における患者支援団体の活動の有用性に関する研究

研究分担者 河村 裕美 NPO 法人女性特有のガンのサポートグループ
オレンジティ 理事長

【 研究要旨 】

NPO 法人女性特有のガンのサポートグループ オレンジティは、活動の一つであるがん患者サポートの一環として、がん患者が地域社会の中で「生活者」として安心して日常生活を送られるように自立支援するピアカウンセリンググループ活動を行っている。そこで、本研究では、地域における効果的な患者支援を検討するため、本患者支援団体が行っているピアカウンセリンググループ活動を取り上げ、課題を明らかにし、マニュアルや実践活動の改善を図ることを目的とする。具体的には、運営方法、手順等をマニュアル化・パッケージ化し、全国各地で検証を行う。

本年度は、広報手法、参加者へのアンケート調査設問の再検討を行い、課題を明らかにした。また、ピアカウンセリンググループ活動の運営方法をマニュアル化／パッケージ化して、秋田県、沖縄県、大阪府で実施した。

A. 研究目的

がん患者が「生活者」として日常生活を潤滑に過ごせるようにするためには、医療機関による支援だけではなく、地域の支援、社会資源の活用が不可欠である。

NPO 法人女性特有のガンのサポートグループ オレンジティは、2002 年から静岡県を中心に地域に根付いた活動を行なっている。患者サポートに関する主な活動としては、ピアカウンセリンググループ活動であるおしゃべりルーム、勉強会、情報提供（ニュースレターなど）、リンパ浮腫相談会などである。その他に、啓発活動として、子宮頸がん検診啓発、地域活動、研究グループへの参加、出張講座などを実施してきた。ピアカウンセリンググループ活動は、現在では静岡県の3地域（中部・西部・東部）と東京で実施している。

本研究では、地域における効果的な患者支援を検討するため、支援方法の一つとして、研究者が所属している本患者支援団体で実施しているピアカウンセリンググループ活動（おしゃべりルーム）をとりあげ、運営方法などをマニュアル化／パッケージ化し、全国各地で検証を行った。

B. 研究方法

研究者が所属する患者支援団体が行っているピアカウンセリンググループ（おしゃべりルーム）のノウハウをマニュアル化した。本活動は、2002 年から実施しており、活動規約も定めている。

マニュアルに基づき、秋田県、沖縄県、大阪府で開催し、実践活動のうち、特に(1)広報手法、(2)参加者アンケート結果から、課題を明らかにした。

実践のなかから見いだされた課題やその過程に検討を加えて、マニュアルや実践活動の改善を図ることをねらいとした。

（倫理面への配慮）

主に実践過程に焦点をあてて分析、評価することが本研究の目的であり、個別の参加者が対象ではない。しかし、その実践過程には参加者の関わりがある。個別の参加者が特定されるような情報は取り扱わず、抽象化した内容を取り出すなどプライバシーの配慮を行った。

C. 研究結果

1. 広報に関する検討

がん患者、医療関係者等に広くピアカウンセリンググループ活動を知ってもらうために、市

町窓口などに案内チラシを置く、新聞広告、ホームページ、会報、病院などへの資料送付など様々な広報手法を用い、各地域で可能な手法を用いて展開した。

2. サポートグループ活動参加者アンケート調査

アンケート調査は、これまでもサポートグループの活動評価の一環として実施してきた。今回、ピアカウンセリンググループの効果と課題を明らかにするために、アンケートを見直した。

2010年4月から変更したアンケート用紙を用いて、アンケートを開始した。アンケートは、サポートグループ参加前後に実施、またピアカウンセリンググループ（おしゃべりルーム）の受付時とグループセッション終了後に気持ちをスケール化してもらった設問を新たに追加し、実施した。

現在までの結果では、気持ちのスケール化では、グループセッション参加後の方が気持ちのスケールが良い方に変化していた。

3. サポートグループ活動パッケージ化の他地域での検証

ピアカウンセリンググループ活動（おしゃべりルーム）の運営手法、手順、基準等をマニュアル化し、他地域での検証を開始した。全国から医療関係者、研究者、患者支援団体が参加する会議等で紹介し、本年度は、希望のあった秋田県、沖縄県、大阪府で開催した。各地域では、マニュアル化したものにそって実施した。

今後、秋田県ではサポートグループの立ち上げに協力することとなった。

D. 考察

1. 広報手法

新聞広告は効果的であるが、費用的に課題がある。広報は、ピアカウンセリング運営の主要項目の一つであり、サポートグループ活動の事業費に含めて考え、マスメディアを積極的に利用できる仕組みを作るようにすべきである。

病院に資料を送付して患者に情報伝達してもらう方法は、ターゲットセグメントしやすい利点がある。案内チラシによる広報は、いかにターゲットの目に触れ、ターゲットに届くようにするかという問題があり、配布箇所の拡大などを検討する必要がある。若年層は、ホームページからの申込が多く、対象年齢別の特徴がみられた。従って、ターゲットにあわせた媒体選択を行うことが重要と考える。

2. サポートグループ活動参加者アンケート調査

気持ちのスケールは、グループセッション前後の参加者の気持ちを簡易的に数値化し、評価したものである。参加者への負担が少なく、また誰でもわかりやすく評価できる利点がある。しかし、参加者の長期的な変化は不明である。また、参加者の背景やレディネスの違いも否めない。どのような評価・対応方法が適切であるか、今後さらに検討が必要であると考えます。

3. サポートグループ活動パッケージ化の他地域での検証

今回開催した3地域はそれぞれ地域の特徴も異なっており、さらに人的・物的資源も決して十分とはいえないなかで、マニュアルを活用することにより、大きな問題が生じることなく開催できた。運営のノウハウを提供することより、立ち上げについては、全国で同じように開催できると考える。継続性をいかにもたせるかは、引き続き検証が必要である。

E. 結論

本年度は、広報手法、参加者へのアンケート調査を見直し、課題を明らかにした。また、ピアカウンセリンググループ活動の運営方法をマニュアル化／パッケージ化して、秋田県、沖縄県、大阪府で実施した。地域により、社会資源も異なるなか、マニュアルを活用し運営のノウハウを提供することより、立ち上げについては、全国で同じように開催できると考える。継続性をいかにもたせるかは、引き続き検証が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

成果の刊行に関する一覧表【平成22年度】

雑誌：外国語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Maemondo M, Inoue A, <u>Kobayashi K</u> , et al.	Gefitinib or chemotherapy for non-small-cell lung cancer with mutated EGFR.	<i>N Engl J Med.</i>	362(25)	2380-8	2010
Kaptein AA, Yamaoka K, Snoei L, <u>Kobayashi K</u> , et al.	Illness perceptions and quality of life in Japanese and Dutch patients with non-small-cell lung cancer.	<i>Lung Cancer.</i>	[Epub ahead of print]		2010
Gaoyahan, Ohno Y, et al.	Extraction of speech parameters relating to the characteristics of emotional expression: Focus on the attentiveness-related parameters such as the nursing experience.	Japanese Journal of Applied IT Healthcare	5(2)	114-123	2010
Suzuki T, Ohno Y, et al.	Consideration of grand design for care environment in hospitals -smell, lighting and sound-	Japan Hospitals	29	65-73	2010
Utada M, Ohno Y, et al.	Analysis of the standardization and centralization for cancer treatment in nagasaki prefecture	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention	11	409-412	2010
Mochimaru Y, Ohno Y, et al.	Relations between radiotherapy resources and breast cancer patient survival rates	Asian pacific journal cancer prevention	11	513-517	2010
Utada M, Ohno Y, et al.	Estimation of Cancer Incidence in Japan with an Age-Period-Cohort Model	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention	11	1235-1240	2010
Utada M, Ohno Y, et al.	Estimation of Cancer Incidence by Prefectures in Japan	ITヘルスケア誌	5(2)	135-154	2010

成果の刊行に関する一覧表【平成22年度】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kawahara S, Ohno Y, et al.	Visualizing the Impact of Interruptions in Nursing Workflow using a Time Process Study	Japanese Journal of Applied IT Healthcare	5(2)	124-133	2010
Utada M, Ohno Y et al.	Analysis of incidence/mortality ratio based on nagasaki cancer registry: If we use the total mortality that including all death-causes	32nd Annual Meeting of International Association of Cancer Registries PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACTS 2010		160	210
Tatsumi Y, Ohno Y et al.	Projection of cancer incidence up to 2010 in japan -all and by prefectures	32nd Annual Meeting of International Association of Cancer Registries PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACTS 2010		219	2010
Hori M, Ohno Y et al.	Markov model analysis on the prognosis of cancer patients in nagasaki, japan	32nd Annual Meeting of International Association of Cancer Registries PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACTS 2010		180	2010
Shimizu S, Ohno Y et al.	The impact of electronic medical records on the work process of outpatient care:Extracting use-cases of paper- based medical records using a time process study	E-Health IFIP Advances in Information and Communication Technology	335	230-231	2010
Ojima H, Ohno, Y, Shimizu S.	The Working Process and Time Efficiency of Patient Transportation in Cardiovascular Hospital Using Time Process Modeling	IFIP Advances in Information and Communication Technology	335	232-233	2010

成果の刊行に関する一覧表【平成 22 年度】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻 号	ページ	出版年
Takeda M, Ohno Y, et al.	Motion analysis on the bed using intelligent vision sensor	SCIS&ISIS 2010(CDROM)		1480-1485	2010
Tanaka N, Ohno Y, et al.	Syringe design for the administration of an accurate dose.	The Virginia Henderson International Nursing Library (21nd International nursing congress, Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing)			2010

成果の刊行に関する一覧表【平成22年度】

雑誌：日本語

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
石川睦弓	がん患者・家族の抱える不安や悩み	外来看護	16(3)	067-079	2011
高亜罕、 大野ゆう子、他	自由対話における発話の共感状態の音声分析	FIT2010 第9回 情報科学技術 フォーラム	RJ	2	2010
志岐直美、 大野ゆう子、他	大阪府におけるがん患者受療動態および地域別生存率の検討	厚生の指標	7巻1号	28-35	2010
清水佐知子、 大野ゆう子、他	日本版幼児睡眠質問票の開発	小児保健研究	69巻6号	803-813	2010
清水佐知子、 大野ゆう子、他	タイムスタディによる看護業務プロセスの可視化	生体医工学	48巻6号	536-541	2010
坂田奈津美、 大野ゆう子、他	タイムプロセススタディ手法を用いた外来化学療法部門の業務分析と増床前後の治療待ち時間比較	ITヘルスケア学会 第四回年次学術 大会抄録集	5巻1号	96-99	2010
薄 雄斗、 大野ゆう子、他	電子カルテ導入前後の外来診察状況の変化に関する研究	ITヘルスケア学会 第四回年次学術 大会	5巻1号	44-47	2010
清水佐知子、 大野ゆう子、他	オブジェクト指向業務モデリングによる患者移送関連看護業務の検討	ITヘルスケア学会 第四回年次学術 大会	5巻1号	94-95	2010
武田真季、 大野ゆう子、他	転倒転落の事前検知システムの開発 (1) 病棟ベッド環境	生体医工学シンポ ジウム2010 講演予稿集 (CDROM)			2010
坂田奈津美、 大野ゆう子、他	外来化学療法患者のタイムプロセススタディおよびそれに基づく待ち時間シミュレーションに関する研究	生体医工学シンポ ジウム2010 講演予稿集 (CDROM)			2010
高亜罕、 大野ゆう子、他	対話における共感状態の分析	全国大会情報処理 学会		2-35-36	2010
森本明子、 大野ゆう子、他	急性期病棟の状態把握における看護師の観察情報処理系の検討	第25回生体生理工 学シンポジウム 論文集		257-258	2010
武田真季、 大野ゆう子、他	医看工融合におけるベッドからの転倒転落動作に関する研究	第25回生体生理工 学シンポジウム 論文集		259-260	2010

成果の刊行に関する一覧表【平成22年度】

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
清水佐知子、 大野ゆう子、他	オブジェクト指向に基づく 患者移送関連看護業務モデ リングの試み	第30回医療情報学 連合大会論文集 (CDR)		1199-1200	2010
林 劍煌、 大野ゆう子、他	看護師行動量・行動パターンと 看護業務の関連に関する検 討	第30回医療情報学 連合大会論文集 (CDR)		1090-1091	2010
笠原聡子、 大野ゆう子、他	看護業務における中断発生 と経験年数との関係	第69回日本公衆衛 生学会総会抄録集	57巻 10号	479	2010
歌田真依、 大野ゆう子、他	長崎県がん登録に基づく2種 類のIM比に関する検討	地域がん登録全国 協議会第19回学術 集会抄録集		84-85	2010
辰巳友佳子、 大野ゆう子、他	日本の都道府県別がん罹患 者数推計	地域がん登録全国 協議会第19回学術 集会抄録集		82	2010
堀芽久美、 大野ゆう子、他	マルコフモデルによるがん 患者予後の解析-長崎がん登 録を用いて-	地域がん登録全国 協議会第19回学術 集会抄録集		97-98	2010
高亜罕、 大野ゆう子、他	対話における共感状態の 音声分析	電子情報通信学会 ヒューマンコミュ ニケーション基礎 研究会	109巻 457号	1-6	2010
高亜罕、 大野ゆう子、他	対話における共感状態の音 声情報からの推定	電子情報通信学会 ヒューマンコミュ ニケーション基礎 研究会	110巻 185号	37-42	2010
大野ゆう子、他	解説特集 看護を測るME	生体医工学	48巻6号	511-554	2010

書籍：日本語

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
石川睦弓、他 (「がんの社会学」に関する合同 研究班)		静岡がん センター	がんよろず相談 Q&A 第7集 乳がん編④		静岡県	2011	

厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業
地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究

社会的支援の先駆的事例調査

静岡県東部市町の調査

調査報告書

平成 23 年 5 月

はじめに

現在のがん患者さんやご家族が置かれている状況の特徴の一つとして、入院を中心とした治療から、通院治療や在宅医療へとシフトしてきていることがあります。つまり、がん患者さんは、自宅を中心とした地域社会で過ごす時間が多くなってきています。

そのなかで、がん患者さんやご家族の悩みや問題は、医療と暮らしに関わることが同時に存在し影響しあって、多様で個別性に富んだ状況にあるといえます。

本研究班では、がん患者さんやご家族に対する社会的支援や情報支援を整理して、効果的な社会的支援の手法を確立することをめざしています。

そこで、まず、がん患者さんやご家族に対する社会的支援として、現在どのような取り組みが行われているのか、また何が必要とされているかなど、社会的支援の先駆的な取り組みや現状を整理する目的で、この調査を実施しました。

前半は、社会的支援の先駆的な取り組みを行なっている施設や団体への聞き取り調査の結果とまとめです。後半は、地域特性にあった社会的支援を考えていくために、静岡県東部地域の市町4カ所の行政機関に行った聞き取り調査から構成しています。

ここにとりまとめた情報が、地域社会でがん患者さんやご家族への支援を考えている方々、また実際に活動している方々の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本調査にあたりまして、貴重なお時間を割いていただき、ご協力くださいました方々に、心より感謝いたします。

2011年5月

厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業
地域におけるがん患者等社会的支援の効果的な実施に関する研究
研究代表者 石川 睦弓

目次

はじめに	1
目次	2
I 調査概要	5
II がん患者や家族に対する社会支援:先駆的事例調査	9
1. 調査概要	10
2. 文献・資料調査	11
3. 先駆的事例:聞き取り調査結果	15
静岡県難病相談支援センター	15
NPO 法人 ミーネット	18
三重県がん相談支援センター	22
NPO 法人 広島がんサポート	27
島根県健康福祉部医療政策課	31
松江市立病院 ハートフルサロン松江	35
松江赤十字病院 くつろぎサロン	38
NPO 法人 女性特有のガンの サポートグループ・オレンジティ	41
4. まとめ	44

III	静岡県東部地域市町調査	51
	1. 調査概要	52
	2. 各市町調査結果	53
	河津町	53
	三島市	58
	伊豆市	62
	沼津市	65
	3. まとめ	68
	4. 調査結果一覧	69
IV	資料	73
	1. 調査票	74
	2. 受け取り資料	78

I 調査概要

1 調査目的

がん患者や家族に対する社会的支援として、現在どのような取組が行われているのか、また、何が必要とされているのかなど、がん患者等社会的支援の現状を整理し、患者・家族の支援モデルの構築につなげる。

2 調査方法

先駆的活動を行っている地域や団体を訪問し調査を行った。また、静岡県東部地域におけるがん患者支援の実情を把握するため、市町の保健センターにおいて調査を行った。調査を行ったのは、次に掲げる 12 団体 (地域) である。

調査者：財団法人 静岡総合研究機構

石川 睦弓 (静岡県立静岡がんセンター)

【先駆的事例調査】

	調査日	調査対象	分類
1	2010年10月28日(木)	静岡県難病相談支援センター *	行政系相談センター
2	2010年11月19日(金)	NPO法人ミーネット	患者支援NPO
3	2010年12月20日(月)	三重県がん相談支援センター	行政系相談センター
4	2011年1月27日(木)	NPO法人広島がんサポート	患者支援NPO
5	2011年1月28日(金)	島根県健康福祉部医療政策課	県・政令市
6	〃	松江市立病院「ハートフルサロン松江」	がんサロン
7	〃	松江赤十字病院「くつろぎサロン」	がんサロン
8	2011年3月7日(月)	NPO法人女性特有のガンのサポートグループ・オレンジティ	患者支援NPO

* がん患者支援の機関ではないが、患者支援の方法及び内容については、難病患者とがん患者とで共通する部分があると考え、調査を行った。

【静岡県東部地域調査】

	調査日	調査対象	分類
1	2011年1月6日(木)	河津町	市町保健センター
2	2011年2月1日(火)	三島市	市町保健センター
3	〃	伊豆市	市町保健センター
4	2011年2月25日(木)	沼津市	市町保健センター

4 調査結果概要

調査結果の詳細は、II以下に述べるとおりであるが、ここでは、その概要について述べる。

(1) 社会的支援 先駆的事例調査

先駆的事例調査から、がん患者と家族に対する社会的支援としては、「交流」、「相談」、「情報提供」の3つの機能が重要であることが判明した。

① 交流

がん患者においても、ピアサポートが注目されるようになっており、患者や家族が自由に入出入りし語り合う患者サロン、患者会など入会した会員同士で行われる交流の場などがある。交流の場の運用主体は患者や家族、体験者の場合が多いが、医療機関内や行政主体の交流の場のなかには、看護師や医療ソーシャルワーカーなどがファシリテーターとして参加している場合もある。主として治療中や治療終了後の定期通院時期の患者に利用されている。

同病者との交流を求める患者は、<患者同士だからこそわかる気持ちや考え>、<孤独感の軽減>、<体験からくる具体的な知恵>を交流の場で分かち合うことが多い。

② 相談

相談は、患者や家族から寄せられる、がんに関するさまざまな事項の質問に関して、問題の整理、情報提供、悩みや不安を傾聴する機能を果たしている。相談は、がん診療連携拠点病院に設置された相談支援センター、他医療機関の相談室、行政機関の相談窓口、また患者支援のNPO、患者支援団体、患者会が実施している。医療機関の相談窓口は主にがんの診断前後～治療終了期までの患者に利用されている。

③ 情報提供

情報提供は、がんに関する様々な情報を、印刷物、報道、インターネットなど各種メディアを通じて患者・家族に提供する。情報提供されるのは、医療機関や専門医の情報、治療方法、行政の窓口、患者支援団体などのピアグループ、副作用や障害への対処方法、暮らしの知恵、食事の工夫など医療から暮らしにいたる極めて広範にわたる情報である。医療機関、行政、相談支援センター、患者支援のNPOなど多くが情報提供を行っている。利用者も、診断直後から終末期まであらゆる段階の患者や家族にわたり、また、情報によっては、がんには罹患していない人も利用している。

(2) 静岡県東部地域市町調査

地域特性を検討するために、静岡県東部の2地域をモデルとし、4市町で聞き取り調査を実施した。モデル地域は、2次医療圏を考慮し、都市型地域は駿東田方医療圏、町村型地域は伊豆半島南部に位置する賀茂医療圏とした。

調査から、都市型地域と町村型地域の特徴及びそれぞれの地域における課題が明らかになった。

都市型地域には、がん患者や家族に対する支援提供者の多くが存在するのに対して、町村型地域では、社会資源・医療資源としては、病院、診療所、市町の保健センター及び地域包括センターが中心で、その数や医療機能等も都市型とは異なる。また、交流の機会、がんに関する情報入手、相談窓口へのアクセス等にも差が生じていた。その結果、一般に、都市型地域においては、患者家族支援の各種サービスが充実し、町村型地域における患者家族支援の各種サービスが不足していると言える。

しかし、町村型地域では、がん患者はがん医療を受けるために都市型地域の医療機関に移動する傾向があり、地域内で完結する社会的支援手法のみではなく、都市型・町村型の両地域のがん患者や家族が出入りするがん診療連携拠点病院、あるいは交通の利便性のある場所での「交流」・「相談」・「情報提供」の場の配置もあわせて検討していく必要がある。

Ⅰ がん患者や家族に対する社会支援：先駆的事例調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

がん患者や家族に対する社会的支援として、現在どのような取組が行われているのか、また、何が必要とされているのかなど、がん患者等に対する社会的支援の現状を整理し、患者・家族の支援モデル構築のための基礎資料とする。

(2) 調査方法

① 文献・資料検討

がん患者や家族に対する社会的支援の状況に関して、文献・資料を収集し、得られた知見を整理した。

② がん患者や家族に対する社会的支援の先駆的事例：聞き取り調査

社会的支援に関する項目を整理する目的で、先駆的活動を行なっている地域や団体などの事例調査を実施した。

(3) 対象（がん患者や家族に対する社会的支援の先駆的事例：聞き取り調査）

活動母体の異なる団体、がん患者支援以外に参考になる社会的支援を実施している機関（団体）とした。

調査を実施したのは、以下の8団体（機関）である。

	調査日	調査対象	分類
1	2010年10月28日(木)	静岡県難病相談支援センター *	行政系相談センター
2	2010年11月19日(金)	NPO法人ミーネット	患者支援NPO
3	2010年12月20日(月)	三重県がん相談支援センター	行政系相談センター
4	2011年1月27日(木)	NPO法人広島がんサポート	患者支援NPO
5	2011年1月28日(金)	島根県健康福祉部医療政策課	県・政令市
6	"	松江市立病院「ハートフルサロン松江」	がんサロン
7	"	松江赤十字病院「くつろぎサロン」	がんサロン
8	2011年3月7日(月)	NPO法人女性特有のガンのサポートグループ・オレンジティ	患者支援NPO

* がん患者支援の機関ではないが、患者支援の方法及び内容については、難病患者とがん患者とで共通する部分があると考え、調査を行った。

2. 文献・資料調査

ここでは、本研究に参考になるとと思われる先行的な研究、実践等に関する文献及び報告について調査した概要を整理する。

(1) 大統領がん委員会『がんを乗り越えて生きる：新たなバランスの発見』2004

(President's Cancer Panel 2003-2004b Annual Report . Living Beyond Cancer: Finding a New Balance)

アメリカ合衆国保健社会福祉省等がまとめた報告書である。がん治療後の生活には、多様でしばしば予期しないような難しい問題が起こるという現実に関心を当て、がんを診断された年代別にその実態や課題を整理している。結論としては、がん患者等は、がん治療後にこれまでとは違った生活のバランスを見つけることが求められるにも関わらず、その道標がないとして、医療、行政、議会等あらゆる関係者に対し、その理解と対応を求めている。

アメリカ合衆国の報告書であり、その内容はわが国に直接参考になるものではないが、がん治療後のがん患者の実態と課題に関心を当てた問題意識は、今日、在宅療養するがん患者が増加し、その社会的支援が求められているわが国にも共通するものである。

(2) 厚生労働科学研究費 がん臨床研究事業「がん患者や家族が必要とする社会的サポートやグループカウンセリングの有用性に関する研究」(主任研究者 保坂 隆) 2008

当報告書では、島根県のがんサロン実践報告が紹介されている。この実践報告では、国内外の先行研究により、「がん患者の心理社会的な回復の過程において、がん患者どうしの交流の重要性が指摘されている」とした上で、島根のがんサロンの特徴を次のように整理している。

a. セルフグループとしての特徴

島根のがんサロンは医師や行政ではなく、がん患者や遺族が発起人としてスタートしたセルフグループである。

b. オープングループとしての特徴

地域のがん患者、家族が気軽に参加できる場としてのオープングループである。全てのがんサロンが患者会のような会員制をとっていないため、関心があれば誰でも参加でき、匿名での参加も可能。

c. 行政と医療機関によるがんサロンへの支援

行政や医療機関が「がんサロン」の人材育成や活動内容の支援を行っている。

d. 関係者とのコラボレーション

がん患者を取り巻く複数の関係者(医療者、行政、学生等)とのコラボレーションを試みている。

そして、このような患者サロンの立上げから運営まで医療ソーシャルワーカーの果たす役割が重要だとしている。

(3) 朝倉隆司、大松重宏「(拠点病院と)患者団体との連携協力体制について」2010

がん診療連携拠点病院と患者会の連携協力体制についての調査。がん診療連携拠点病院と患者会の連携協力が求められているが、地域によってはそもそも患者会が地域にない、あるいは乏しい実態がある。そのため、社会資源となるがん患者会の立上げ、継続的活動の方法等の知識や技術を提供するシステムが必要であるとしている。その前提として地域の患者会の把握等の支援を行政に求めている。

当報告書では、がん診療連携拠点病院と患者会の連携協力について活動など、参考となるモデル活動も次のとおり示している。

a. 千葉県がん患者団体連絡協議会

当事者と医療関係者、行政担当で「千葉県がん患者大集会」を企画した。また、千葉県では「がん診療連携拠点病院における患者及び家族が語り合う場(患者サロン)に関する勉強会」がある。実際に千葉県内の拠点病院には「患者サロン」が多い。

b. NPO ミーネット

名古屋市と協働で、がん患者さんの情報収集と交流の拠点「名古屋市がん相談情報サロン・ピアネット」を開設。

c. 滋賀県がん診療連携拠点病院と滋賀県がん患者団体連絡協議会との連携

d. がん患者活動サロンひだまり定例会(北海道がんセンター)

複数の患者会がサロンを利用している。三か月に一回の頻度ですべての患者会と定例会を開催している。その複数の患者会と病院側との情報交換の場を作っている。

e. 広島県のがん診療連携拠点病院は地域にある NPO 広島がんサポート(がん全般の患者支援団体)と上手く連携している。

f. 福岡県全域ではなく筑後ブロックの拠点病院で地域の患者会を立ち上げようとしている。診療圏が重なるので地域の社会資源として考えている。

(4) 滋賀県がん診療連携拠点病院と滋賀県がん患者団体連絡協議会との連携

前述した滋賀県の取組の概要である。滋賀県がん患者団体連絡協議会に報告によると、滋賀県がん対策推進計画に患者の要望事項が次のとおり盛り込まれた。

- a. 緩和ケア外来の設置
- b. 患者サロンの開設
- c. ピアサポートが行える相談員の設置
- d. がんに関するサイトの開設
- e. がんフォーラム